

事業概要報告書

事業名	福江火山群，鬼岳の噴火様式の解明
事業実施者	清杉孝司 神戸市灘区六甲台町 1-1，自然科学総合研究棟 3 号館 622 号室 電話 078-803-5758（携帯：090-6838-7466） kiyosugi@port.kobe-u.ac.jp
事業期間	令和 2 年 8 月 1 日 ～ 令和 3 年 2 月 28 日
事業結果の概要	火山噴火によって大気中に放出され，重力によって降下し堆積する降下火砕堆積物には，形状や発泡度，結晶度などに様々な違いがある．こうした違いを生み出す要因を地質学的，岩石学的に明らかにし，噴火のプロセスの理解に役立てることを目的に鬼岳火山において噴出物の調査を行った．鬼岳の南約 1km の地点において農地造成の際に現れた露頭では，鬼岳降下スコリア堆積物が鬼岳火山の噴火初期の堆積物である大窄降下スコリア堆積物を約 8 m の厚さで覆っている．鬼岳降下スコリア堆積物は中央粒径が 2 ～ 4 mm 程度の淘汰の良い堆積物で，上部はやや細粒である．構成物には，石基中に結晶を多く含むスコリアや，石基中に結晶を含まないガラス状スコリア，石基中にナノライトを含むサブガラス状スコリア，溶岩片などが含まれる．これらの構成物の量比や火砕物の形状（しぶき状，角礫状，亜円礫）の違いから鬼岳降下スコリアは上部と下部に分けられる．
事業の考察	鬼岳降下スコリア堆積物の下部には主にしぶき状のスコリア（ガラス質の物や石基に結晶を多く含む物）が見られるためこの火砕物はマグマが深部から急激に上昇して噴火し，大気中で急冷したことで生じたと考えられる．一方，鬼岳降下スコリア堆積物の上部は下部に比べ，亜角礫状の溶岩片やサブガラス状スコリアを多く含むことが特徴である．溶岩片は下位の溶岩が破碎され噴煙に取り込まれた物と考えられるため，この時には火口位置の変化や，より爆発的な噴火への移行があったと考えられる．この噴火は地形的に新しい鬼岳山頂の南側火口の形成（先に形成された北側からの移動）に対応する可能性がある．
備考	

(注) 事業の実施が分かる写真を添付してください。

(注) 調査・研究事業については，詳細が分かる資料を別途提出してください。